

3. 栽培実践のポイント（児童・生徒を指導する場合の心構え）

(1) 栽培学習に関する教師の技術力と指導力（基本的であり、かつ重要なこと）

作業（耕起、施肥、播種の間隔や深さ、水やり、草取りなど）が生育や生長に与える影響や、最終的な収量や品質、花の形や色への反映を的確に把握させることが重要

- ① 個々の作業の意義について、的確に理解できる指導力
- ② 研究（本、雑誌、インターネット、直接指導など）や経験（予備的栽培）の積み重ね
- ③ 子供たちと一緒に学んでいく場。教師が率先して作業をやって見せることが大切（やってみないと解らないことが多い）
- ④ 予備試験や作業や作物の生育を記録（次年度以降に有効）

(2) 最終的な収穫物や鑑賞物の姿を前もって知らせる（動機付け）

花や野菜などの写真、現物、見たことのある物の確認など

- ① すばらしい成果（おいしい・楽しい収穫物、きれいな花など）を最後に得るのだ、という気持ちにより、草取りなどの退屈でつらい作業も耐え、楽しみながら栽培を続ける原動力
- ② 途中の生育不良や枯死に備え、予備の個体を用意（教師の分として、落胆して栽培が嫌いにならない）

(3) 収穫物を保護者や地域の人々などに食べてもらったり鑑賞してもらおう機会

- ① 収穫による満足感や達成感は、栽培の教育効果を増大し、栽培実践を継続する力

(4) 心と体格・体力の発達を十分考慮した内容

- ① 幼児、児童、生徒それぞれにふさわしい説明の仕方や道具の使用法、作業手順を工夫